

10. 学校評価～最終評価の結果と改善策～

学校教育目標

確かな学力をもち、心豊かでたくましく生きる子の育成
～自力、全力、底力を発揮して～

① 確かな学びのある学校づくり

- 教職員アンケートでは、①の1で肯定的な割合が前回同様100%で、プランの取組に基づいて朝学習や帯タイムなどで学力向上に向けた取組を、組織的に実践できている。
- 保護者アンケートでは、①の3で肯定的な割合が88%と前回よりも8%増えた。また、児童も肯定的な割合が76%から92%と増え、授業や家庭学習を通して、基礎的な学力がついてきている。
- ▲検証問題や学力調査の結果、基礎基本の考え方を活用し、自分の考えを分かりやすく表現する力の定着が不十分である。
- ☆教員の授業力向上のための「授業カスキルアップ」、児童の活用力向上のための「蛸島スキルアップ」の取組を継続し、普段の授業改善や学力向上を図る。

② 温もりのある学校づくり

- アンケートや蛸島っ子面談で、定期的に職員全体で一人一人の児童への情報を共有し、理解に努めようとした。
- 高学年が中心となって全校で楽しめるようななかよし集会を企画・実行し、よりよい関係づくりにつながっている。
- 毎月のファミリーデーの取組により、家族で過ごす時間を大切にするとともに、教師も家庭での様子を知ることができた。
- ▲今年度、いじめ、不登校につながるような大きな問題はなかったが、今後もきめ細かに児童の様子に気を配り、小さな変化を見逃さないように対応していく必要がある。
- ☆災害から時間が経って心身の不調が出るかもしれないことを踏まえ、人権教育の視点から児童の心の支えとなる取組ができるとよい。

③ 健康な体を育む学校づくり

- 教職員・保護者ともに強肯定の割合が高くなった。
- ▲生活習慣については、児童の肯定的回答の割合が76%と、規則正しい生活を送っている意識が低い。
- ▲運動については、保護者の肯定的回答の割合が72%と、体力の向上に関して課題がある。
- ☆生活ふりかえりカードの事前指導の充実を図るなど、児童の意識が高まるよう働きかける。震災後の様々な環境変化も踏まえつつ、体力向上に関して実施できる取り組みについて検討を続ける。

④ 地域と連携した郷土愛を育む学校づくり

- 地域の良さを生かした体験的な活動については、教職員・保護者ともに前回と数値が変わらず、高評価であった。
- ▲積極的な情報発信については、教職員で－5.7%、保護者で－4.0%と課題が見られた。学校便りは毎月発行されており、発行ホームページの更新頻度も高いことから、各学級の学級便りや連絡帳・電話等での交流や情報発信が不足していたと考えられる。
- ☆時間割や行事の連絡だけでなく、日々の児童の様子についてもこまめに発信する。

⑤ 教職員のチーム力を活かす学校づくり

- どの項目も肯定100%で、定時退校を意識しながら、職員が協働的に業務に励んでいることがうかがえる。
- 定時退校日実施率は1学期は月3.0日平均であったが、2学期は月4.5日となった。時間を意識し、集中して業務を行うことができた。
- ▲強肯定の割合がややダウンした。課題を把握して業務を遂行していく意識が低かったのではないかと考える。
- ▲時間外勤務の1学期の平均は22時間54分であったが、2学期は24時間10分と、1時間16分増加した。2学期は新しい取組や行事も多かったことも要因の一つと考えられる。
- ☆行事や取組の見直しや、分掌において業務の偏りがないか確認し、見直しをもった提案をするように組織的に取り組む。